

【特別寄稿】桐技会 会報 No. 8 & 卒業生からの報告④

筑波大学 医療科学類同窓会 『桐技会』



1 回生リレー原稿

近況報告

岩手医科大学附属病院 中央臨床検査部
免疫血清検査室
岩手医科大学大学院 医学研究科修士課程
小原文裕

私が筑波大学を卒業し、臨床検査技師として働き始めてからもうすぐ 4 年目になります。

私は大学を卒業後、地元の岩手医科大学附属病院に就職しました。就職してから輸血検査室、生理機能検査室を経て、現在は免疫血清検査室に所属し、感染症や腫瘍マーカー、自己抗体などの検査を担当しています。免疫血清検査のルーチン業務の他に、採血担当者として採血業務に携わったり、夜間に睡眠時無呼吸症候群の検査のための機器装着を行ったり、自分の担当検査以外でも幅広く様々なことを経験させていただいています。

また、臨床検査技師として働きながら昨年 4 月からは岩手医科大学大学院修士課程

にも進み、大学院では遺伝子工学を専攻しています。普段は他の検査技師の方と同じようにルーチン業務や夜勤をこなし、夕方仕事が終わった後や休日に研究を行っています。当検査部では、日中は検査技師として働き夜は研究という形で修士課程に進んだのが私で 4 人目ということで、比較的周囲の理解も得られ恵まれた環境で仕事と研究を両立することができています。私は就職 3 年目で大学院に入ったのですが、当院に就職する前から、臨床検査技師として働きながら大学院で研究もしたいと考えていました。大学在学中から研究にも興味はあったのですが、あくまでもメインは臨床検査技師として病院で働くことを希望していました。そのため、大学卒業後にそのまま学生として大学院修士課程に進むのではなく、臨床検査技師として働きながらも大学院で研究ができる道を探していました。幸運にも地元でそれが可能な大学病院があり、希望がかなう形となりました。仕事が終わってから夜中まで研究をすることは、身体的・精神的にきつと感じることもありますが、そんな時は恵まれた環境で自分の好きな研究ができる喜びを常に思い続けることで乗り切ることができています。

また、今年は 5 月に神戸で開催される日本医学検査学会で初めての学会発表を控えているため、大学院の研究の他に検査の方でも研究・検討を行っており、忙しい日々を送っています。

さらに、臨床検査技師としてスキルアップのために今年は免疫血清学の二級臨床検

査士試験にも挑戦する予定です。

同時にたくさん抱え過ぎで、はじめは全部が中途半端になってしまうのではないかと心配もありました。しかし、実際に行動にうつしてみるとどうにかなるものだし、ひとつのことが充実すると相乗効果で全てのことにやる気がおきて、今は非常に充実した毎日を送らせていただいています。

私は仕事にしても研究にしても、ただその時その時を一生懸命にがむしゃらにやっているだけなので決して偉そうなことを言える立場にはありませんが、後輩の皆さんにはやりたいことがあったら無理に選択肢を狭めずに、いろいろなことに挑戦してほしいと思います。

2 回生リレー原稿

今号から2回生のリレー原稿がスタートします。一人目は東京大学医学部附属病院の臨床検査技師、長井蘭さんです。

はじめまして。2回生の長井蘭と申します。現在、東京大学医学部附属病院で臨床検査技師として働いています。今回は卒業生の近況報告ということで、私の仕事内容、大学院進学等について述べたいと思います。

私の所属は感染制御部で、業務内容は主に微生物検査、ICT ラウンドです。東大病院は検査部、輸血部、病理部、感染制御部の検査4部に分かれています。よって当直や採血業務の有無は部署ごとに異なります。私の所属する感染制御部は当直はありませんが、土日出勤、採血業務はあります。

微生物検査は楽しいです。これは私の率直な感想ですが、同じ部で働いているみんなも

同じように感じているようです。私は学生のとき、卒業研究で寄生虫の診断についての研究をやっていたので、実は細菌や真菌にあまり興味がありませんでした。そんな私がいま微生物検査を楽しみと思えるようになったのは、私たちの出す結果が診断に直結すること、細菌が我々と同じ生物であるということを認識できたことにあると思います。

微生物検査は検体を染色し、培養した菌を同定し、薬剤感受性結果を報告します。単純に見えるこの作業一つ一つが実はとても重要なのです。まず検体の染色ですが、迅速で行う染色には一般細菌に対するグラム染色、抗酸菌に対するチールネルゼン染色がありますが、この染色結果でまず治療方針が大まかに決められます。グラム陽性菌とグラム陰性菌とでは選択される抗生物質は大きく異なってまいります。次に菌の同定結果によって抗生物質のスペクトラムは狭められます。最後に感受性結果によってさらに抗生物質は狭域に選択することができ、薬剤耐性菌か否かなど詳細な情報を臨床側に伝えることができます。この情報が感染症治療に貢献できていると思うとやりがいを感じます。

細菌も我々と同じ生物と言いましたが、細菌も生き延びるために進化します。抗生物質に耐えられるよう耐性遺伝子を獲得したり、遺伝子を変異させて耐性化したりします。また変異することで人に対する病原性を増す菌もいます。私は仕事をしているうちにこのような薬剤耐性機構や人に対する病原性のことをもっと専門的に学びたいと思うようになりました。そこで2年目の夏に大学院を受験し、3年目から働きながら大学院に通うことにしました。仕事と勉強の両立は大変だと思いますが、この進学がいずれは職場や臨床にプラスになると

信じ、頑張りたいと思います。

ルーチン業務はもちろん一番大事です。でもそれだけでなく、研究や勉強をすることで日々の仕事での視野は広がり、臨床にさらに良い情報が提供できると思います。日々進歩する医学ですので、私たちもその歩みに遅れないよう学んでいくことが大切だと思います。

私は学生のとき将来に不安を抱えていました。しかし働いてから発見することの方が圧倒的に多いです。就職に関してはあまり考え過ぎて不安にならず、学生のうちは学生生活を楽しみ、自分の興味のあることにとことん打ち込んでください。私は卒業研究で自分のやりたいことを思いっきりできたことが今の自分に繋がっていると感じています。

社会に出たら共に頑張りましょう。

卒業生メッセージ

この春卒業を迎えた4回生から卒業に際してのメッセージをもらいました。

この学年の皆と一緒に卒業できるか、正直ずっと不安でした。でも、無事再履修の嵐を乗り越え、なんとか国試の合格通知をもらうこともできました。影に日向に応援(心配)してくれた方々に、感謝をこめて、ありがとう。(200511748)

実習やレポートに追われ、予想していた以上に忙しい日々でしたが、4年間とっても楽しかったです！みんなどうもありがとう！(200611768)

医療科学での4年間はあっという間でしたが、その中で多くのことを学ばせていただきました。特に卒業研究では自分が興味ある分野を一から考え、調べ、実験することができ、医学や生物学の基礎研究に触れるよい機会となりました。(200611770)



(第4回生 謝恩会)